

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101687		
法人名	有限会社 マインド		
事業所名	グループホーム 愛の郷		
所在地	山口県下関市一の宮東町3丁目380-1		
自己評価作成日	令和元年7月24日	評価結果市町受理日	令和2年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和元年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.当施設では、ご利用者が入浴を楽しめる天然ラドン泉を使用しています。
2.静かな環境の中、敷地内の畑や花壇にて四季を五感で感じ、日常生活をご利用者の心身状態に合わせて過ごせるようサービス提供に努めている。
3.ご利用者、ひとり一人の笑顔大切に、地域の一人として日々の生活を安心して過ごして頂けるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員は、事業所独自の理念を歌詞にして作曲したものを、一日に2回、合唱しておられます。利用者は毎日歌われることで、何処にいても何気なく理念である歌を口ずさまれるほど、自然に日々の暮らし方や過ごし方を職員と共有しておられます。朝夕の食事は、利用者と一緒に畑で栽培した野菜を利用されるなど、季節を大切にした手づくりの食事を利用者と一緒につくっておられます。食事は利用者が食べやすいように形態の工夫をされる中で見た目を大切に、別物に見えないように盛り付け時には、成形を大切に提供しておられるなど、細やかな配慮をしておられます。利用者が土に親しみ季節を五感で感じてもらえるように、花壇や畑を利用され季節の花や野菜づくりに取り組まれて、心身の活性化ができるように取り組んでおられます。1日に1回以上は大笑いをするなど話されるほど、利用者と職員は笑顔の絶えない毎日を過ごしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をホールに掲示し職員と一緒に共有する事で、実践に繋がるように努めている。理念を記した歌を利用者と共に唄い実践につなげていけるように努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。理念を歌詞にして、歌いやすく作曲したものを、利用者と職員と一緒に毎日歌う中で、理念を共有している。管理者と職員は、利用者が笑顔でのびのびと暮らしているかを話し合い、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが、外出時に挨拶を交わしたり、地域行事(夏祭り)に参加している。幼稚園児との交流や民生委員の方の歌を事業所内で披露して頂くことで外出が難しい方も施設内で交流が出来るようにしている。	自治会に加入し、職員は年2回、道路の清掃や溝掃除に参加している。利用者は、地域の夏祭りに職員と一緒に参加し、出店(焼きそばや鯛焼き)を利用して交流している。事業所主催の夏祭りには地域から大人から子どもまでの参加があり、利用者は金魚すくいや的当ゲーム、綿菓子等を参加者と一緒に楽しんでいる。年2回、幼稚園児が来訪し、演舞の披露やプレゼント交換等、楽しみな交流となっている。利用者は買物時や散歩時には地域の人と挨拶を交わし、近所の人から花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、施設で起きた事例をもとに、認知症の理解・協力を努めている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	一部の役員以外の職員に自己評価を実施している。また、評価をもとに課題を再度確認し、改善点を考え、より良いケアに繋がるように努めている。	管理者は、職員に評価の意義を説明し、自己評価をするための書類を職員全員に配布し、記入してもらい、一人でまとめている。職員は自己評価を日々のケアの振り返りと捉えており、改善した記録物を活用しての更なる改善や工夫について提案している。前回の外部評価結果を受けて、自己評価の活用や全員での取り組み、事故発生に備えて、看護師の指導による勉強会(応急手当、骨折、擦り傷、打撲等)を実施、水害時の避難場所を決定するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、入居状況や日常の様子、行事報告、を行っている。行事等に助言もあり、会議内の意見を基に職員間で話し合いを実現出来るように努めている。	会議は新自治会の会長1名を増やして、2カ月に1回開催している。利用者の状況や活動状況、行事報告、事故・ヒヤリハット報告、外部評価結果報告等の後話し合いをしている。時宜を得たテーマ(感染症、熱中症、介護技術等)で勉強会を行うなどの工夫をしている。参加者からは災害時のシュミレーションの実施についてや地域行事の紹介、地域に新たに整備された「みんなの広場」の紹介があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類等、運営上の疑問が生じた場合は、電話や直接出向くなどし相談や助言を頂いている。	市担当者とは、運営推進会議時や電話、直接出かけるなどして情報交換を行い、申請内容や手続き、運営上の疑義、市のサービス、困難事例について相談を行い助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話、直接出かけて情報交換や事例相談を行い連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関に直面している道路は、交通量が多く安全確保の為、玄関に鍵をしているが散歩や外出の機会を作るなど時間帯に応じて施錠しないような取り組みをしている。また、内部研修にて、身体拘束について理解が出来るよう努めている。	職員は、「身体拘束等適正化のための指針」を基に定期的な研修や、内部研修(身体拘束、虐待防止)の中で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関にはなるべく施錠をしないように努め、外出したい利用者があれば、職員と一緒に出かけて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいた時には職員がお互いに注意合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会資料をもとに内部研修を行い、対応方法や、防止策等について学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用しているご入居者がいる為、資料を事業所内に置き、いつでも見る事が出来るようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に苦情窓口についての説明を行っている。意見箱の設置や施設に対する要望等アンケートを実施することで家族からの意見を確認している。又、意見等については職員にも報告し運営に反映できるように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に十分に時間をとり説明を行い質問にも応じている。安心して利用をして頂くために疑問等あれば、その都度対応し理解を得るようにしている。	相談、苦情の受付窓口や外部機関を明示し、第三者委員、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。家族からは、面会時や運営推進会議参加時、年1回の家族会、行事(クリスマス会、ミニ運動会等)参加時、電話等で意見や要望を聞いている。玄関に意見箱を設置している。意見や要望は申し送りノートに記録して職員間で共有している。3ヶ月に1回、事業所便りを家族に送付し、面会時には利用者を担当している職員が利用者の様子を話す時間を設けているなど、意見が言いやすいように工夫している。家族からは個別ケアについての相談、要望(スリッパの高さ、衣類等)があり、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、月例会を行い、日常の業務について職員の意見を聞くようにしている。	管理者は、申し送り時や月1回ある月例会、係り業務(事故、行事、レクリエーション等)を通して職員の意見や提案を聞いている他、日頃から言葉をかけて意見が言いやすい雰囲気づくりに努めている。職員からは個別援助記録の改善や備品購入(かき氷器、綿あめ器)、勤務変更等についての意見や提案があり、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時には、事前に希望休を確認。利用者や職員の状況に応じ、就業時間、補助等の調節を他職員の協力のもと実施している。外部研修は勤務の一環として行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やスキルに応じて、出来る限り研修の機会を作るようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は月1回ある内部研修で伝達してもらい、資料はいつでも閲覧できるようにして全員が共有している。内部研修は、年間計画を立て、職員が分担されたテーマの講師となって、災害時の対応や食中毒予防、介護保険、接遇と電話対応、倫理、感染症、移動と移乗、入浴・食事介助、身体拘束、虐待防止等を実施している。新人職員は、日々の業務の中で管理者や先輩職員の指導を受けて、介護の知識や技術を働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、研修会等で交流を図っていけるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前の面談時に本人や家族に話を伺い、本人が置かれている状況が理解できるように努めている。思いを受け止め、安心して頂くことで信頼関係が築いていけるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と会話する機会を作り、話を傾聴する事で家族の思いを知り寄り添う事で、いつでも相談が出来るような人間関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に得た情報や本人・家族との会話からニーズを見極め、優先順位を考慮しサービスの提供や対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の些細な言動の中から本人の思いに気付ける様、家事や食事等を共に行いコミュニケーションを密にとることで信頼関係を築ける様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出、行事への参加を促し、ご利用者、ご家族、職員が同じ時間を過ごせる機会を設け、交流や思い出の共有をする事でより良い関係を築けるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は落ち着いて過ごせる様、居室で過ごして頂き、手紙等を利用し交流できる機会を提供している。また、ご家族協力の下、外出をされ馴染みのある人や場所と関わる事もある。	家族の面会や親戚の人、友人、同級生、近所の人の来訪がある他、電話や手紙、年賀状での交流を支援している。外出時には、以前住んでいた地域や利用していた商店(パン屋等)に立ち寄る等の支援をしている。3ヶ月毎、家族宛に「事業所便り」を送付し、利用者の元気な顔写真や日頃の様子、家族に参加して欲しい行事の紹介をしている。家族の協力を得て染みの理容院の利用や法事に参加、墓参り、外出、外食、一時帰宅、外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を把握し、席配置や家事等、職員も共に関わる事で利用者同士が円滑に交流を図り、共に支え合いながら過ごせるよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて電話連絡等、本人や家族の相談に応じれるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活上の様子から本人の訴えや行動を記録し、日々の申し送りや毎月の月例会やカンファレンスの際に職員間で共有し検討を行いケアに努めている。	入居時に基本情報や本人、家族の思い、暮らし方の意向、趣味、嗜好、好きなものなどを聞き取り、フェイスシートに記録して、活用している他、日々の関わりの中での利用者の表情や言葉、対応等を記録して、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、毎月の月例会やカンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネジャー、利用者から情報を収集しフェイスシートを作成、入居前の様子を把握出来る様に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス提供記録、健康チェック表をもとに、利用者1人1人の1日の様子・状態を把握出来る様に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当職員を中心に、ケアカンファレンスを行い、計画作成担当者、職員、本人、家族の意見を介護計画に反映し現状に即したプランを作成に努めている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の思いや意向、主治医や看護師の意見を参考にして職員で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成し、日々の様子や実践結果、利用者の反応等を記録し職員同士で情報共有している。また、記録は出勤時に確認し口頭での情報共有も行う様に努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、医師の指示のもと施設の看護師が必要とする処置や内服調整を行っている。ビューティーヘルパー訪問により整髪をしたり家族の支援が得られない方は買い物や受診の支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや幼稚園からのボランティアの受け入れをしている。 花畑や野菜畑等を活用しながら、利用者の方が毎日楽しく暮らしていける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の方の希望を尊重し主治医を決めている。馴染みの医師による継続医療を希望する場合は、情報を提供し適切な医療を受けられるように支援している。協力医療機関をかかりつけ医としている方は、月に2回訪問診療を受けており、受診記録に残すことで職員、家族と情報を共有できるように努めている。	利用者と家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関をかかりつけ医としている場合は、月2回の訪問診療がある。その他のかかりつけ医や他科受診は、家族の協力を得て受診支援をしている。歯科は必要に応じて訪問診療がある。受診結果は往診記録や受診記録に記録して職員間で共有し、家族には電話で報告している。看護師が利用者の健康管理を行い、受診時には医師に情報提供をし、緊急時には協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職員の一員として利用者の方と関わるようにし異常の早期発見に努めています。利用者の方の変化に気付いた際には、記録に残し相談をする事で必要時は受診が出来る様に努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族への経過報告や病院への情報提供を行っている。 入院中は、家族と連絡をとり情報の共有を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所で出来る対応について説明、同意を得ている。 重度化した場合は、家族の希望を確認した上で、医師、看護師、管理者に相談を行い今後の方針について検討している。	重度化した場合に、事業所でできる対応について契約時に家族に説明をして同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から、本人や家族の意向を聞き、主治医や看護師と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、事故報告書を作成し、事故の原因を明確にするとともに再発防止策の検討を行っている。月例会議の際に再度、再発防止後の経過について話し合いを行っている。応急手当、初期対応の訓練については、まだ全職員が実践力を身につけているとは言えない為、訓練が必要である。	事例が生じた場合は「ひやりはっと、アクシデント報告書」に発生状況や経過、再発防止策等を記録し、職員に回覧して周知し、月1回の月例会時に再度検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。職員は内部研修で感染症予防や食中毒の予防、擦り傷、骨折、打撲、緊急時の対応等について学習しているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練(日中、夜間)を行っているが全職員が避難方法を身につける所まで至っておらず、火災以外の訓練についても出来ていない。水害時の避難方法は消防署から指示を受けている。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜の火災を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方について利用者と一緒に実施している。当地域は浸水地域であることから、水害時の避難場所について運営推進会議の中や消防署との協議を重ねた結果、事業所の2階(ダイケア)を避難場所としてよいとの指示を受けており、地域の人の避難場所としての活用も提案することとしている。運営推進会議の中で訓練への参加をお願いしているが、地域や運営推進会議メンバーの参加はなく、地域との協力体制が十分とは言えない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、密なコミュニケーションを取る事でご利用者の理解に努め、ご利用者ひと一人が人生の先輩である事を考慮し敬意をもった言葉がけで対応している。	職員は内部研修(倫理、身体拘束と虐待防止等)の中で学ぶとともに、代表者による「理念を実践することが利用者の尊厳を守ることにつながる」と言う、常日頃からの指導を通して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。代表者は、常に理念を実践することが利用者の尊厳を守ることにつながることを話している。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各ご利用者に合わせたコミュニケーションを取り、本人の思いや希望を傾聴し、情報を共有する事でケアにつなげ、ご利用者が自らの意思表示が出来るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日一日利用者のペースを大切にしている。各ご利用者と個別に関わる事で、その人らしく生活を送る事が出来る様に支援出来る様に努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回ビューティーヘルパーの訪問を受けており、散髪や髪染めの希望を毎月利用者を確認し行っている。男性は髭剃り、女性はお化粧をする事で身だしなみを整え、おしゃれができるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ご利用者の心身状態に合わせて施設の畑で収穫した野菜収穫し準備・食事・片付け等を職員と一緒にいき、食を楽しめる様に努めている。またご利用者の誕生日には本人が食べたい料理を作ってお祝いをしている。	昼食は法人の厨房からの配食を利用し、朝食と夕食は利用者の好みを聞いて献立を立て、畑で取れた旬の野菜(さつまいも、ミニトマト、茄子、胡瓜、さやえんどう)等の食材を使って、利用者と一緒に事業所でつくっている。食べやすいように食器や形態の工夫をして提供している。まるで別物のように見えないように盛り付け時の成形には細やかな配慮をしている。利用者は食材の買物や野菜の下ごしらえ、切る、盛り付け、お茶汲み、食器を洗う、食器を拭く、テーブルを拭く、トレイを拭くなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルについて、食材や気候についての会話を弾ませながら食事をしている。おやつづくり(クレープ、ホットケーキ、綿あめ、シュークリーム)や、ウッドデッキでのお茶、好きな献立とケーキがつく誕生日食、季節行事食(おせち料理、節句のちらし寿司、土用の鰻、ソーメン流し、年越しそば、雑煮)、家族の協力を得て外食に出かけているなど、食事が楽しみなものになるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズムパターンシート等を活用し食事量や水分量を記録の上、確認し各ご利用者の心身状態に合わせて支援できるよう努めている。体重測定を定期的に行い、状況に応じて医師に相談をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、清潔が保てるようにしている。口腔ケアが難しいご利用者にも口腔内に残渣物が無い様に努めている。また、状況に応じ、歯科受診(往診)を依頼しケアの仕方について指示を仰いでいる。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズムパターンシートを活用し、排泄のリズムを把握する事で適切な間隔で排泄出来るよう声掛けや誘導に努めている。	生活リズムパターンシートを活用して、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。紙おむつやパットの使用は根拠を職員間で話し合い、家族にも説明をして使用している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の体重から1日の必要水分摂取量を計算し、目標摂取量分の水分を促している。便秘傾向の方は、医師、看護師へ相談し内服での排便調節を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前または午後、利用者の状況に応じて入浴を行っています。入浴を拒否される方に対しては、ご利用者のペースに合わせ気持ちの配慮を行い対応を工夫する事で入浴できるように支援している。	入浴は9時から11時の間と13時30分から15時30分までの間、毎日温泉入浴できる。順番や湯加減等、本人の希望に合わせてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、部分浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムパターンシートを活用し、睡眠パターンの把握をし失禁等の不安等を考慮し安心して眠れるよう支援に努めている。昨夜不眠の方、倦怠感がある方に関しては、昼夜問わず自室で休憩を促し、ゆっくりとして頂いている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表と薬情を一緒に管理し、内容を速やかに確認出来るようにしている。薬の変更時は、記録し情報を共有することで誤薬を防ぎ、状態の変化を観察し医師、看護師に報告するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技を活かし、毎日楽しく生活を送る事が出来るよう、個々の能力に応じた役割を作っている。	居室やホールの掃除(掃除機を使う、モップや箒で床を掃く、拭く)、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、カーテンの開閉、花を生ける、花瓶の水を換える、客への挨拶、お茶出し、畑仕事(苗植え、水やり、草取り)、野菜の収穫(さつまいも、胡瓜、ミニトマト、茄子、さやえんどうなど)、テレビやDVD(時代劇、歌)の視聴、CDを聞く、新聞や雑誌、本を読む、ぬり絵、切り絵、貼り絵、歌を歌う、カラオケ、季節の壁画づくり、風船バレー、ボール遊び、ボーリング、紙風船、パズル、ことわざ遊び、しりとり、計算、漢字ドリル、テレビ体操、リハビリ体操、口腔体操、季節行事(雛祭り、夏祭りでの花火や出店の利用、ソーメン流し、敬老会、ミニ運動会、幼稚園児の演舞会、クリスマス会等)、門司港へピクニック、併設のデイサービス利用者との交流等、利用者の喜びや活躍できる場面を多くつくり、楽しみ事や気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて散歩をしたり、ドライブへ出かけたりと戸外へ出かける機会を作っている。家族の方との外出支援もあり、買い物、墓参り等も行っている。	周辺の散歩や食材の買物、ウッドデッキでの外気浴、日光浴、季節の花見(桜、菖蒲、紫陽花、バラ、芭蕉、コスモス、紅葉)、ドライブ(戦場ヶ原、長府庭園、自宅付近、忌の宮神社、市内)、初詣、門司港へピクニックに出かけている。家族の協力を得て、馴染みの理容院の利用や法事への参加、墓参り、外食、一時帰宅、外泊など利用者の希望に添って出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての利用者ではないが、お金を所持し外出時に使える様に支援している。 金銭の自己管理の難しい方に関しては、買い物をする際に職員がお金を手渡し支払いをして頂いている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安感の強い時や本人が電話を希望された際は、状況に応じて電話の使用が出来る様に対応している。また、年賀状での手紙のやり取りも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂く為に、ホールに花を飾ったり行事の写真を飾ったりしている。 居室やトイレは、分かりやすいように表札や張り紙を貼っている。 心地よく過ごせるよう空調や彩光調整を行うようにしている。	ホールは天井の梁を見せた広々とした空間となっており、室内には季節の花を飾り、西側の窓には、西日を軟らかくするための簾を利用し、季節を感じることができる。テレビの前にはソファが配置してある。横になれる畳室やウッドデッキに出て周辺の木々の緑を見るなど、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。台所からは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。壁面には季節の壁面飾りや活動写真、紙細工の自作品が飾ってある。温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや椅子を設置し、個別にゆっくりとくつろげるスペースを設けている。 テーブルの位置や椅子の配置を工夫し、利用者同士の関係性に配慮した環境作りに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険となるもの以外は、利用者の慣れ親しんだ物を持ち込んで頂いている。 家族写真や愛用の物を置く事で安心して過ごせる空間作りに努めている。	ベッド、テレビ、時計、ラジカセ、寝具、衣装ケース、衣装スタンド、机、籐椅子、本や雑誌、鏡、整容道具等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、誕生日の色紙や自作品を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の能力を把握し、各ご利用者に出来る限り安全で自立した生活を送る事が出来る様に環境作りに努め工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 愛の郷

作成日： 令和 元 年 12 月 6 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	職員は内部研修で感染予防、擦り傷、骨折、打撲、緊急時の対応等について学習しているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでに至っていない。	全職員に対して定期的に勉強会を行い、知識や技術を身につけ緊急時に落ちついた対応が出来るようにする。	①内部研修で看護師を中心にした応急手当や緊急時の対応の勉強会を行う。	12ヶ月
2	36	消防署の協力を得て昼夜の火災を想定した避難訓練を行っており、水害時には事業所の2階を地域の避難場所としての活用も提案することとしているが、地域や運営推進会議のメンバーの参加はなく、地域との協力体制が十分とは言えない。	地域住民の方たちと協力出来る体制を作っていく。	①消防署を交えての火災、水害時の訓練を実施し、運営推進会議にて地域の方々と災害時における避難場所や経路等の情報を共有する。 ②年2回の昼間及び夜間想定訓練の実施を継続。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。